

yamabuki 通信

yamabuki は、『小学校でのパソコン授業』の URL より
パソコン室から 不定期 発行

No. 113
平成 20 年 1 月 24 日
情報教育アドバイザー
広田 さち子

情報モラル(6)

情報モラル、という授業を考えたとき、どんな流れが考えられるでしょうか。

1. 場面・状況がわかるようにする。
2. 情報の活用場面を紹介。(情報活用の「いい」面)
3. 問題となる点の可能性を紹介する。(情報活用の「悪い」面)
4. いい面と悪い面との対比。(多くの場合、一つの性質に両面がある)
5. 悪い面への対処の仕方。
6. 自分1人で判断することの危険性。
7. 上手な情報活用。

まず、シチュエーション(状況・場面設定)をイメージできなければ、場に応じた対応を決めることができません。インターネットであれば、インターネットとは何か、がわからなければなりません。もちろん、細かいことまでわかる必要はなく、最低でも情報の向こうには「誰か」がいる、その「誰か」がどんな人かわかりづらい、ということがきちんと伝わればいいのです。

さらに、情報をやりとりするいろいろな仕組みや機能があることもわからなくてはいけません。それは、テレビやラジオといったよく知っているメディアや、書籍(雑誌)、ポスターなど身近なものから、インターネットのメール、掲示板、ホームページの閲覧だけでなく、ネットショッピングやオークションなど、実にいろいろな場面で様々な情報に遭遇します。

これらの一つ一つで、情報モラルの指導が考えられるわけですが、何度も書いてきたように、最終的には、

(情報を扱うことで)「(自分も含めて)誰かをイヤな思いをさせたり、困らせたりしない」という意識を、いつも持てるようにすることです。

ですから、メールであれば、「(受)文面から相手の意図を読み解く(迷惑メールやチェーンメール、フィッシング詐欺などを見分ける)」「(送)相手(読む側)の立場で何度も読み返して、問題ないか確認する」など、面と向かっての会話との違いをふまえながら、どうしたら送受信でトラブルにならないか、子どもたち自身がどこに気をつけなくてはならないかに気づくように、考える方向を指し示してやれるといいと思います。

それと最も大切なのは、生半可な考えで判断し行動することの危険性を知ることです。困ったときには大人の助けを借りる、これをしっかり覚えてもらいたいです。